2023.2.24

PRESS RELEASE
金沢21世紀美術館　2023年度事業のご案内

2023‣24

Research for new environment, technology system, material information

アート×新しいテクノロジー

2023年度の金沢21世紀美術館のプログラムのコンセプトは、アートと新しいテクノロジー（Art and new technology）です。デジタルテクノロジーの発達は21世紀に入り、インターネットとAI（人工知能）によって、私たちの環境や生活を大きく変えようとしています。AIのアルゴリズムが作り出す幻想や「真実らしさ」は、現実世界と仮想世界の境界を不確かにしています。かつて加賀藩主前田家が「百工比照」で国内の最先端の技巧やデザインを集めたように、現代の先端技術やクリエーションを集めることで、現在を乗りこなすための次のインターフェースが見えてくるかもしれません。
アメリカ人作家アレックス・ダ・コルテはメディアを通して伝えられる「イメージ」をテーマにしています。人気テレビのアイコンを流用した明るいポップアート風の映像や彫刻を通して、「氾濫するイメージがもたらすものは何か」を問いかけます。DXP（デジタル・トランスフォーメション・プラネット）展はデジタルによって変容する私たちのライフスタイル、感性や考え方の現在とその先に焦点を当てています。この惑星では、インターネットやメタバース、NFTなどの新しいインフラの中で、高次の知的創造性を担い始めたAI、新素材、バイオコンピューターなど、従来の「デジタル性」とは異なった有機的で生態的な生物とテクノロジーの関係が生まれているのです。
デジタル化は身体や知覚の関係を、様々な角度から、見直す機会を与えてくれます。コレクション展1では形と精神の関係を、個人の精神を超えたより大きなシステムとの関係で捉えた作品を、コレクション展2では世界と身体をつなぐ媒介としての「音」の重要性に着目し、多様な音の要素を含む作品を展覧します。デジタルと身体の関係はデザインギャラリーの工芸の技とデジタル的な速度や透明感が交錯した作品展示や、アペルトの若手作家による複数の時空間を編み込む超高密度のデジタル写真画面に見られます。
「今」への新しい視点を各界の専門家が語るフォーラム・Я（アール）や、多様な観客を包摂するプログラム、よりオルタナティブな創造活動に開かれたアンド21+（プラス）、街の魅力を再発見してくれるアーティスト・イン・レジデンスなど、皆さんの心身をアップデートし、ともに「丁寧に」生きることに向けた豊富なプログラムがあなたを待っています。

金沢21世紀美術館館長　長谷川祐子

金沢21世紀美術館
広報担当：落合、石川、齊藤　〒920-8509　金沢市広坂1-2-1
TEL 076-220-2814　FAX 076-220-2802　MAIL press@kanazawa21.jp

※本内容は2023年3月現在の予定です。
展覧会名やイベント名、会期などは変更になる場合があります。
最新の情報は直接お問合せください。

2023年度に開催する二つの特別展では、インターネットの時代だからこそ、改めてメディアの役割を探究するアレックス・ダ・コルテの日本初個展と各界のクリエーターが今起こっていることを様々に解釈しインターフェイスとして展開、総合的な生き方の可能性を探求する「DXP一次のインターフェースへ（仮題）」を年間のテーマにご紹介します。現在進行系のアーティストたちの実践から、アートとテクノロジーの行く先を探ります。

Alex Da Corte　Fresh Hell
アレックス・ダ・コルテ　新鮮な地獄

4月29日（土・祝）— 9月18日（月・祝）

1

アレックス・ダ・コルテ《The Open Window》2018
© Alex Da Corte studio

アレックス・ダ・コルテ（1980年カムデン／ニュージャージー州生まれ、フィラデルフィア／ペンシルベニア州、米国在住）は、「イメージの作られ方、認識のされ方」、またその延長にある記憶の作られ方について探求している作家です。我々がスクリーンやモニターを通して「見ているものは、いったい何なのか。またそれはどのように理解されるのか」、さらには現代社会の消費文化を定義するようになった欲望と記憶と知覚の関係にも踏み込み、私たちを「氾濫するイメージがもたらすものは何か」といった問いに向き合わせています。日本で初めての個展となる今回は、なじみのキャラクターやアイコンに彩られる遊び心のあるポップでバーチャルなイメージと、現実の陰鬱さや寂寥（せきりょう）感が共存する不思議な魅力にあふれた映像作品を中心に紹介する展覧会です。

2

アレックス・ダ・コルテ《Rubber Pencil Devil》2019
Collection of Louisiana Museum of Modern Art, Denmark
© Alex Da Corte studio

DXP（デジタル・トランスフォーメーション・プラネット）
―次のインターフェースへ（仮題）

10月7日（土）ー 2024年3月17日（日）

3

Keiken《Morphogenic Angels and The Bubble Theory》2022
© Keiken

デジタルテクノロジーによってこの地球という惑星、そこに住む「私たち」の生き方や感性はどのように変わっていくのでしょうか。20世紀から繰り返されてきたこの問いに対して2023年、いままでとは全く違った惑星の姿が出現しようとしています。人新世と呼ばれ、見えないネットワークやAIによるコントロールに浸されたこの惑星DXPでは、テクノロジーと生物との関係が日々新たに生成されています。またDXPは、アーティスト、建築家、科学者、プログラマーなどが集い、領域横断的に、この変容を捉え、今起こっていることを理解し、それを感じられるものとして提案する展覧会/インターフェースでもあります。注目のテクノロジーであるAI、メタバースやバイオテクによる現代のリアル、そしてそれに続く未来のヴィジョンとしてのDXPは衣食住も含めた総合的な生き方の可能性を探求します。

4

河野富広《AR Effect Wig transformation 1》2020
© Tomihiro Kono

拡張するコレクション

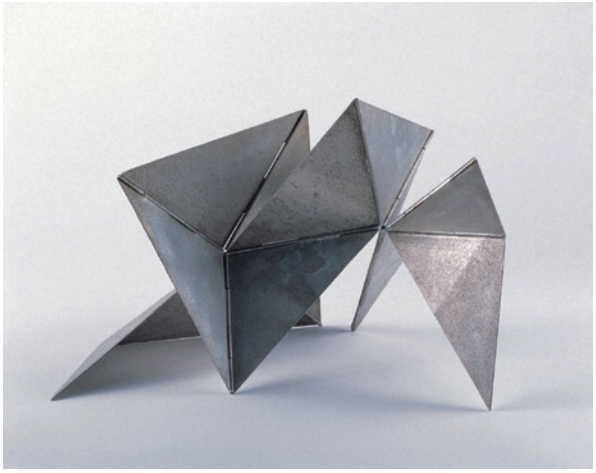
金沢21世紀美術館では、開館前の2000年より現在まで約4,000点の現代美術作品を収蔵してきました。2023年度は、当館の多様なコレクション作品から様々な形のパターンに見る精神との関係に迫るコレクション展1を開催。コレクション展2では、カールステン・ニコライのコレクション作品をはじめ、聞くだけにとどまらない、私たちの身体で知覚する音の可能性を探ります。過去から現在、未来へと拡張し続けるコレクションとその豊かなバリエーションをお楽しみください。

コレクション展1
それは知っている：形が精神になるとき

4月8日（土）ー11月5日（日）

形と精神の関係は、普遍的な問いとして、古来より芸術作品を通して探求され続けてきました。目に見える、見えないを問わず、自然、社会、言葉、夢といった私たちの世界の至る所にある様々な形のパターン。私たちは日々、形同士の関係やパターンの結び付きからおのずと生じる、個人の心よりも大きなシステムとしての精神をどこかで感じています。本展では、60年代から近年の作品まで、絵画、彫刻、写真、映像、インスタレーションといった多様な当館コレクション作品から、様々な形の関係が知っている精神のプロセスに迫ります。

5



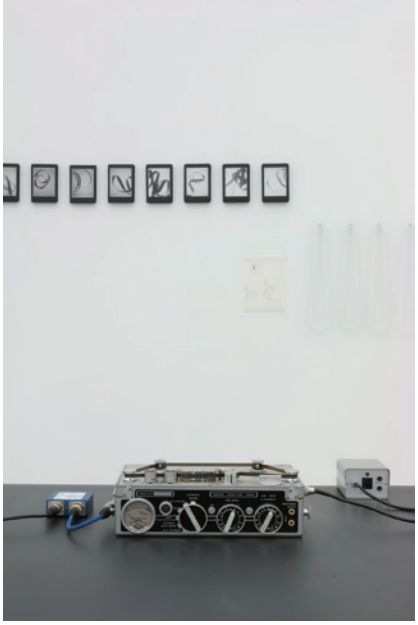
リジア・クラーク《動物ー二重の蟹》1960
金沢21世紀美術館蔵
© “The World of Lygia Clark” Cultural Association
photo: SAIKI Taku

コレクション展2
リミックス・サウンド（仮題）

11月18日（土）ー2024年5月12日（日）

現代の私たちは、自然の環境音から人工の電子音まで、あらゆる「音/サウンド」と共に生きています。音というメディアは、「聞く・聴く」だけではない「身体」の知覚を通して、私たち人間と世界をリミックスする力を持っています。今こそサウンドは、過剰な情報によって分断された私たちをつなぎ直し、この世界と私たちとの関係を再編することができるのではないでしょうか。本展は、カールステン・ニコライによるノイズを含むあらゆる音を録音、集積し、世界の複雑さとつながりを見せる《リアリスティック》を起点に、「聴覚でとらえる空気の震え」だけではないサウンドの可能性を模索します。

6



カールステン・ニコライ《リアリスティック》1998
金沢21世紀美術館蔵
© carsten nicolai
courtesy: Galerie EIGEN+ART Leipzig/Berlin
photo: FUKUNAGA Kazuo

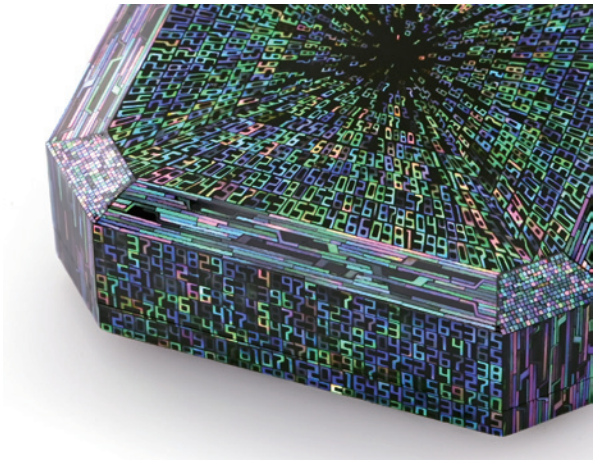
デザインギャラリー ―― デザイン×アート×テクノロジーで変える、変わる未来

人々の生活をより豊かにするデザインやテクノロジーが社会に果たす役割に着目し、業界の第一線で活躍するアーティストやクリエイター、企業とのコラボレーションを探るなど、発想力、技術力、デザイン性に富んだ各分野最先端の取組をご紹介します。

虚影蜃光（きょえいしんこう） ― Shell of Phantom Light

4月8日（土）―9月18日（月・祝）

金沢美術工芸大学と金沢卯辰山工芸工房で漆芸の技術を磨いた池田晃将（てるまさ）は、伝統的な工芸に見られる器型で、近未来的な世界観を体現する作品を発表しています。幼少期から親しんできた漫画、アニメーション、ゲームなどから着想を得た螺鈿の構造色を活かした作品には、ホログラムのような立体感と電気信号が高速で移動するような疾走感があります。本展のタイトルにある光と影は自然界を生きる貝のもたらす妖しい輝きと黒の漆のコントラストから生まれる作風を、生物工学的なイメージやデザインワークまで拡張できると捉えたものです。



7

［参考画像］
池田晃将《天地四方百千香合》2022
個人蔵
H2.2 × W6.1 × D6.1 cm
漆、木曽檜、鮑貝、夜光貝、金

アペルトシリーズ ―― 若手作家を中心に個展形式で紹介する展覧会シリーズ

「アペルト」（イタリア語で『開くこと』）は、若手作家を中心に個展形式で紹介する展覧会シリーズです。世界の「現在」とともに生きる美術館として、今まさに興りつつある新しい動向に目を向け、作品発表の機会を通じて未来の創造への橋渡しをします。

アペルト18 顧剣亨（こけんりょう） 陰/残像

4月8日（土）―9月18日（月・祝）

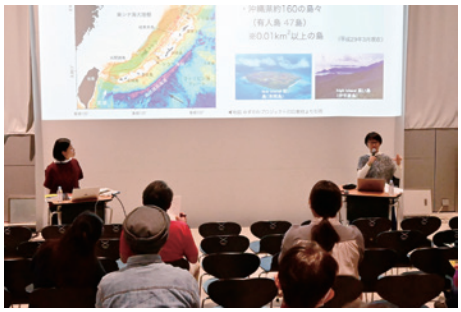
顧剣亨は1994年京都生まれ、上海育ち。「デジタルウィービング」という複数の写真の時空間を編み込む独自の手法によって、まるで織物のような写真作品を生み出し、イメージの背後に潜在している文脈を表現します。本展では、中国・福建省の原始林や沖縄のやんばるなどの各地の森を高解像度カメラで撮影した大型の新作シリーズを紹介します。人間には処理しきれないイメージの密度を持つ顧の作品は、パンデミック以降ますます加速する大量の視覚情報の中でまひしている現代の鑑賞者の感性に、自然の持つ多時間性・多言語性・多場所性を通して、変化をもたらすでしょう。

8

顧剣亨《Mori, Shades_dw_001》2023
© Kenryou Gu
courtesy of Yumiko Chiba Associates

芸術交流事業

金沢21世紀美術館では、市民をはじめ、多様な価値観や背景を持つあらゆる人々が主体的に参加できる事業を実現し、美術館を介して、人と人、人と地域が有機的につながっていく、出会いと交流の「場」を共創します。



9

2022年度フォーラム・Я vol.2(高橋そよ)の様子

フォーラム・Я（アール）～これからを話そう

年4回（予定）

各回で様々な分野の専門家をお迎えし、世界にある「今」への新しい視点や考え方を学びます。美術館の専門スタッフが聞き手となり、皆さんとともに「少し先の未来」との向き合い方を考える、伸びやかな学びと語らいの場を目指します。科学技術の進歩が社会を変化させ続ける中、また地球環境や社会システムの更新などに対応すべく、私たちがあらゆる分野で協調してそれぞれが未来に向かえるように、変化を理解し仕組みや態度を調整／更新していく学びの機会とします。

10

「映画の後はコレ！ゆるっと話そう in まるぴぃ」の様子（2022年12月）

広坂シネマクラブ

部員募集：4月　活動：通年

映画をテーマに多世代で多様な人たちがつながる「まちに開かれた新しいコミュニティづくり」が、2022年度に始まりました。初年度は映画監督との映像制作ワークショップ、フィルム上映やユニバーサル上映の勉強会と実践を行いながら、部員同士でアイデアを出し合って活動しました。一人でいつでもどこでも映画を楽しめるこの時代に、美術館で他の人と映画を見る・作る・見せる「大人の部活動」を通して、交流とチャレンジを楽しむ仲間を今年度も募集します。

11

劇団あはひ『光環（コロナ）』
撮影：奥祐司

芸術交流共催事業 アンド21+（プラス）

7月～2024年3月に3公演（予定）

多様で実験的なプレゼンテーションを美術館が支援します。主にシアター21で行うジャンル不問の公演事業を公募し、有識者による選考を経て採択された事業を共催事業として実施します。関連企画としてワークショップやアウトリーチも併せて実施し、アーティストとまち、人との相互の交流を促進します。また公演には高校生を無料招待するなど、若者層の鑑賞者育成にもつなげています。

2023年度採択団体

- K-zone.
  「“祈りの音” を聴く～Listen to the Sound of Player」
- Noriko Okaku and Helen Papaioannou
  「Live Audiovisual Performance
  That Long Moonless Chase /その長い月のない追跡」
- 「ランニングと水」実行委員会
  「ランニングと水一周回遅れのトップランナー（仮）」

12

ノイマルクト劇場+市原佐都子/Q『Madama Butterfly』（ロームシアター京都、2022年9月）

高校生［15-18歳ユース］対象

劇的!バスツアー2023

9月・11月（予定）

高校生の劇場での舞台芸術鑑賞を支援する旅行型鑑賞プログラムです。高校生は低額な料金でツアーに参加でき、舞台公演を見ることができます。鑑賞に付随して、ナビゲーターによるプレトークや演出家、俳優などとのトークセッション、劇場の裏側を見学するバックステージツアーなども併せて実施します。豊かな劇場文化との出会いを補完するとともに、文化芸術に関わるプロフェッショナルな人や仕事を知るという意味でも貴重な機会となっています。

13

ティファニー・チュンによるウッカガー（金武大川、沖縄県金武町）の調査の様子

AIR KANAZAWA（エアー・金沢）

通年

国内外からヴィジュアル・アート、音楽、パフォーミング・アーツの分野におけるアーティストや、自然科学、哲学、歴史、文学など様々な学術研究に関わるキュレーター、研究者などを招いて、滞在交流をしながら制作、リサーチ、フィールドワーク、ワークショップ等を行うアーティスト・イン・レジデンスのプログラムです。

2023年度のレジデント（滞在者）※予定

オスジェメオス（ブラジル）、ティファニー・チュン（米国）、エマヌエーレ・コッチャ（イタリア）、岡田利規（日本）

14

「市民美術の日 オープンまるびぃ2022」当館の建築や恒久展示作品についてのミニトークの様子 撮影：中川暁文

市民美術の日　オープンまるびぃ2023

11月3日（金・祝）

美術館をより開いていくことを目指すプログラム。そのため地域の方とつながり、協働や交流の活動を生み出し、美術館の使い方や過ごし方を共有・探索していきます。金沢市民が主催展覧会を無料で観覧できる日「市民美術の日」にはギャラリートークやワークショップなどこの日だけのプログラムをスタッフ、ボランティア、地域の団体などが協力して行い、市民の方をお迎えします。

15

2021年度「みんなの美術館　みんなと美術館　来館しやすさと楽しさを考える10のレッスン」活動風景 撮影：中川暁文

みんなの美術館　みんなと美術館

通年

「誰にとっても来館しやすい、楽しい美術館はどんな場所？」ここ数年、金沢21世紀美術館では見た目ではわかりにくい身体的な特性をお持ちの、「手話」をコミュニケーションに用いる、耳が聞こえない「ろう者」の人たちとともに楽しめる機会づくりを、手話通訳者のサポート等を受けながら行ってきました。美術館という公共の場が多様な人々にとって芸術文化を通じて社会参加できる場となることを目指し、関わり合いの幅を広げていきます。

16

2022年度「絵本を読もう」の様子

アートライブラリー・プログラム

毎月1回

『絵本を読もう』は、絵本を楽しみながら展覧会に親しめるプログラムです。
テーマに沿った絵本の読み聞かせを行ったあと、作品鑑賞や造形活動を行います。また、キッズスタジオ・プログラムの工作ワークショップや美術館探検を組み合わせた企画も実施しています。絵本を通じて作品との新たな出会いや発見を促し、子どもから大人まで美術館を楽しめる機会となっています。

17

2022年度ミュージアム・クルーズの様子（コレクション展1 うつわ展覧会場）

金沢市内小学4年生全児童招待プログラム

ミュージアム・クルーズ

5月～2024年1月

2004年の開館時に記念事業として開催した「ミュージアム・クルーズ・プロジェクト」では、金沢市内で学ぶ小中学生約4万人が美術館を訪れ、現代美術と出会いました。この経験を活かし、2006年度から実施している「ミュージアム・クルーズ」では、市内の小学4年生を対象に美術館、現代アート、作品鑑賞プログラム・メンバー「クルーズ・クルー」との出会いの場を創出し、長期的視点に立った教育普及活動と鑑賞体験の深化を目指します。

18

2022年度ワークショップの様子

中学生まるびぃアートスクール「考え方を考える」

8月～2024年1月（予定）

金沢市内の中学生とアーティスト、学校、美術館が共同でワークショップを行います。自分自身のことや世界にあるもの、社会の出来事などを自らの視点で見つめ、考え、思いを表現し、それらの成果を展覧会や記録集などの形で公開します。

19

2022年度「ハンズオン・まるびぃ！」の様子

キッズスタジオ・プログラム

【毎週土曜・日曜、祝日】
休日プログラム「ハンズオン・まるびぃ!」
【毎週火曜～金曜の平日】
平日プログラム「まるびぃ すくすくステーション」
【毎月】絵本を読もう

「ハンズオン・まるびぃ！」では子どもたちが造形活動や作品鑑賞を楽しみます。「まるびぃ すくすくステーション」では平日の美術館を小さなお子さんとの散歩コースとして楽しめるよう子育て広場としてオープンします。

展覧会スケジュール

2023　4　5　6　7　8　9　10　11　12　2024　1　2　3　4

Alex Da Corte　Fresh Hell
アレックス・ダ・コルテ　新鮮な地獄
会期…4月29日（土・祝）～9月18日（月・祝）
プレスガイダンス…4月28日（金）
会場…展示室7～14

ＤＸＰ―次のインターフェースへ（仮題）
会期…10月7日（土）～2024年3月17日（日）
プレスガイダンス…10月6日（金）
会場…展示室7～14（要チケット）
デザインギャラリー（無料）、長期インスタレーションルーム（無料）

コレクション展1　それは知っている：形が精神になるとき
会期…4月8日（土）～11月5日（日）
プレスガイダンス…4月7日（金）
会場…展示室1～6

コレクション展2　リミックス・サウンド（仮題）
会期…11月18日（土）～2024年5月12日（日）
プレスガイダンス…11月17日（金）
会場…展示室1～6

虚影蜃光 ― Shell of Phantom Light
会期…4月8日（土）～9月18日（月・祝）
プレスガイダンス…4月7日（金）
会場…デザインギャラリー

アペルト18 顧剣亨 陰/残像
会期…4月8日（土）～9月18日（月・祝）
プレスガイダンス…4月7日（金）
会場…長期インスタレーションルーム

有料展
無料展

芸術交流事業スケジュール

2023　4　5　6　7　8　9　10　11　12　2024　1　2　3　4

フォーラム・Ｆ（年4回予定）

広坂シネマクラブ

部員募集（広坂シネマクラブ）

AIR KANAZAWA

みんなの美術館　みんなと美術館

ミュージアム・クルーズ

アンド21+（期間中3公演予定）

中学生まるびぃアートスクール「考え方を考える」

● **劇的!バスツアー 2023（予定）**
● **劇的!バスツアー 2023（予定）**

● **市民美術の日　オープンまるびぃ2023 11月3日（金・祝）**

ハンズオン・まるびぃ! …… **毎週土曜・日曜、祝日**
まるびぃ すくすくステーション …… **毎週火曜～金曜の平日**
アートライブラリー・プログラム …… **毎月1回**

料金表

展覧会名	会期	当日窓口販売料金				WEB販売料金・団体料金（20名以上）		
		一般	大学生	小中高生	65歳以上	一般	大学生	小中高生
Alex Da Corte Fresh Hell **アレックス・ダ・コルテ 新鮮な地獄**	4月29日（土・祝） 〜9月18日（月・祝）	1,200円	800円	400円	1,000円	1,000円	600円	300円
ＤＸＰ **―次のインターフェースへ（仮題）**	10月7日（土） 〜3月17日（日）	1,200円	800円	400円	1,000円	1,000円	600円	300円
コレクション展1 **それは知っている：** **形が精神になるとき**	4月8日（土） 〜11月5日（日）	450円	310円	無料	360円	360円 ※	240円 ※	無料 ※
コレクション展2 **リミックス・サウンド（仮題）**	11月18日（土） 〜5月12日（日）	450円	310円	無料	360円	360円 ※	240円 ※	無料 ※

※ WEB販売チケットは、当館WEBサイトからご購入いただけます（販売開始日は各展覧会によって異なります）。
※ コレクション展は同時期開催の特別展チケットで観覧できます。
※ 表中※について、コレクション展はWEB販売はありません（当日券販売のみ）。

広報用画像

画像1〜19を広報用にご提供いたします。ご希望の方は下記をお読みの上、
当館プレスルームの画像提供ページからお申し込みください。
https://www.kanazawa21.jp/form/press_image/

［使用条件］
※広報用画像の掲載には各画像のキャプションとクレジットの明記が必要です。
※トリミングはご遠慮ください。作品が切れたりキャプション等の文字が画像にかぶったりしないよう、レイアウトにご配慮ください。
※情報確認のため、お手数ですが校正紙を広報課へお送りください。
※アーカイヴのため、後日、掲載誌（紙）、URL、番組収録のDVD、CDなどをお送りください。
以上、ご理解・ご協力のほど、何とぞよろしくお願いいたします。